

通貨選択型 Jリート・ファンド (毎月分配型) 豪ドルコース

追加型投信／国内／不動産投信 (リート)

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2021年12月21日～2022年6月20日

第132期	決算日：2022年1月18日	
第133期	決算日：2022年2月18日	
第134期	決算日：2022年3月18日	
第135期	決算日：2022年4月18日	
第136期	決算日：2022年5月18日	
第137期	決算日：2022年6月20日	
第137期末 (2022年6月20日)	基準価額	5,074円
	純資産総額	2,866百万円
第132期～ 第137期	騰落率	6.7%
	分配金合計	150円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

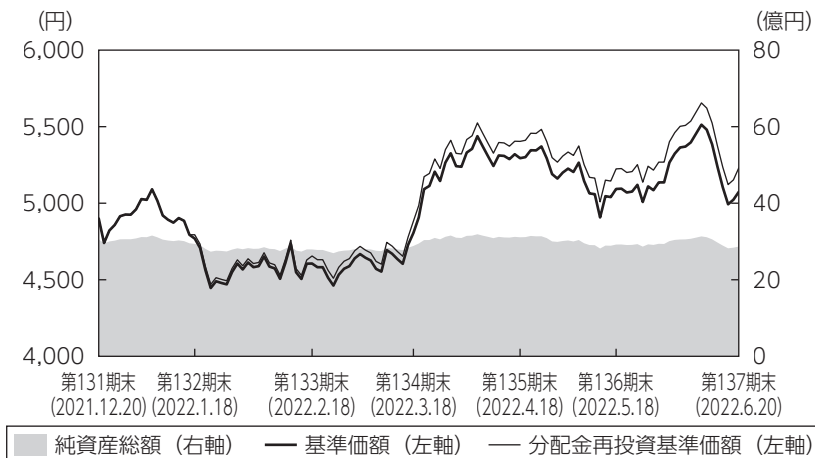
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第132期首： 4,900円
 第137期末： 5,074円
 (既払分配金150円)
 騰落率： 6.7%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

Jリート市場が、新型コロナウイルス変異株の感染拡大による景況感悪化懸念や、米国金利の上昇懸念などを背景に下落した一方で、豪ドルが対円で上昇したことがプラスに寄与し、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第132期～第137期		項目の概要
	(2021年12月21日 ～2022年6月20日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	21円	0.427%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は4,957円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(4)	(0.082)	
(販売会社)	(16)	(0.329)	
(受託会社)	(1)	(0.016)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	21	0.428	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

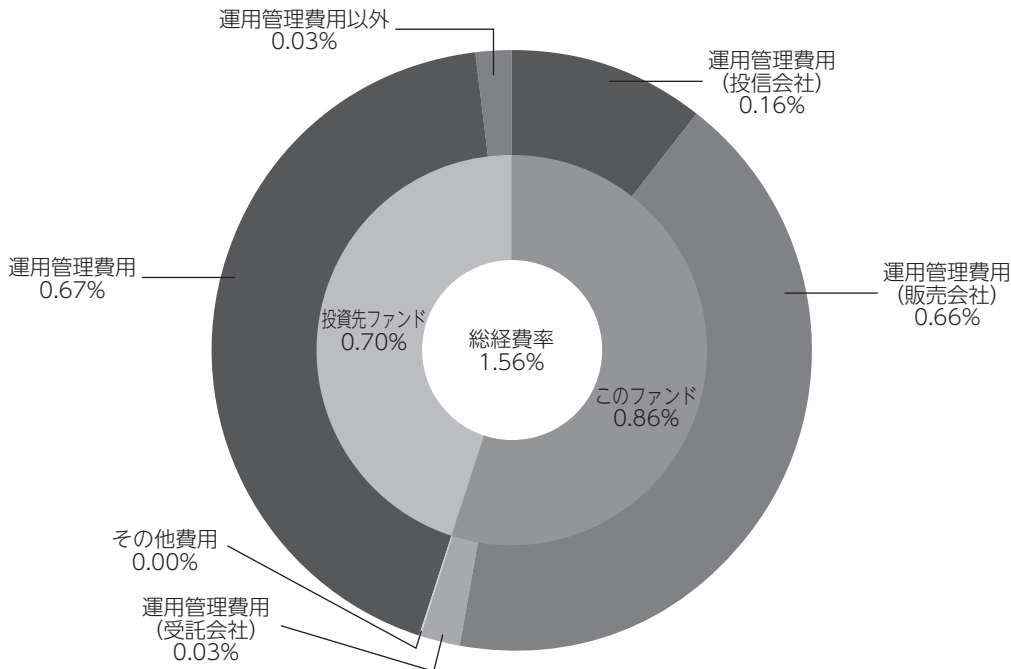
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.56%です。



総経費率 (①+②+③)	1.56%
①このファンドの費用の比率	0.86%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.67%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

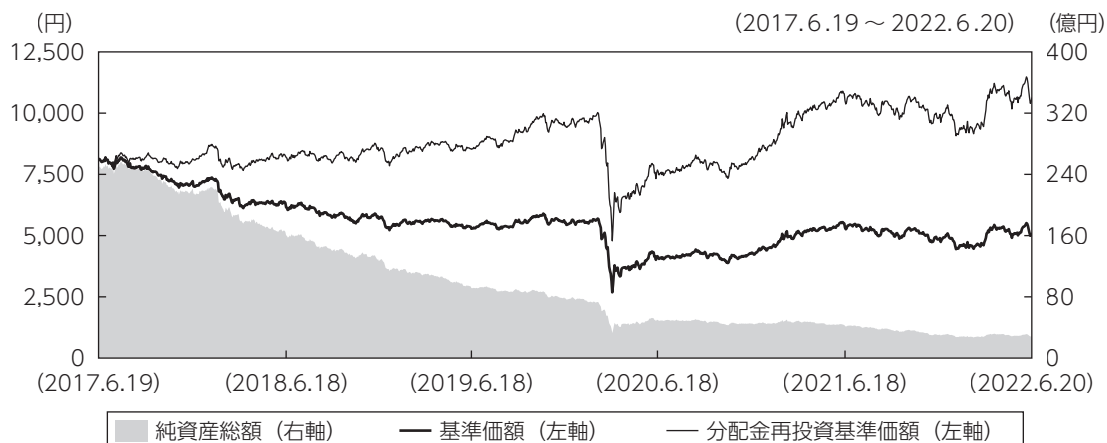
(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドは、源泉徴収税を含みません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



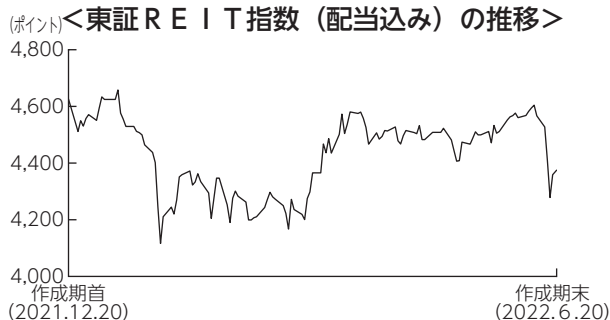
- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2017年6月19日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2017年6月19日 期首	2018年6月18日 決算日	2019年6月18日 決算日	2020年6月18日 決算日	2021年6月18日 決算日	2022年6月20日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	8,096	6,156	5,280	4,160	5,326	5,074
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	2,010	1,105	660	300	300
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	1.2	4.0	△9.9	36.7	1.1
純資産総額 (百万円)	24,874	16,014	9,132	4,992	4,191	2,866

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を定めておりません。

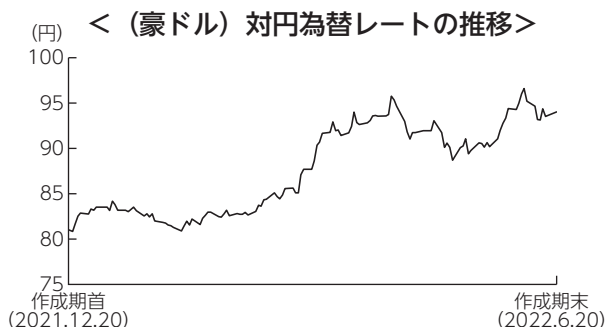
投資環境

● Ｊリート市況と為替市況



（注１）値は前営業日のものを採用しております。

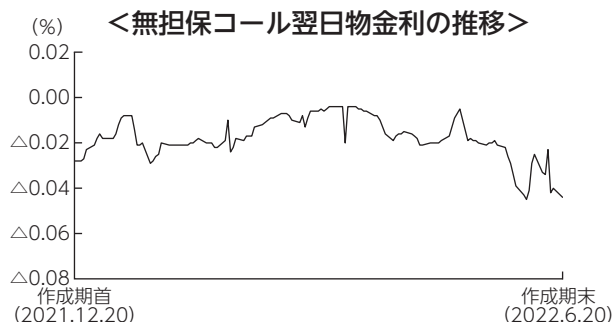
（注２）東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社ＪＰＸ総研または株式会社ＪＰＸ総研の関連会社（以下「ＪＰＸ」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はＪＰＸが有しています。



Ｊリート市場は、東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）で見ると5.42%下落しました。作成期首から新型コロナウイルス変異株の感染拡大による景況感悪化懸念等を受け、値動きの荒い展開となりました。2022年1月には、米国金利の上昇懸念等からリスク回避的な動きが強まり、大幅に下落しました。3月中旬には相対的な投資妙味が見直されたことなどから上昇し下げ幅を縮小したものの、作成期末にかけては、米国金融政策の不透明感などが嫌気され、大幅に下落しました。

豪ドルは対円で上昇しました。供給問題や原油価格高騰などを背景にインフレ懸念が高まり、オーストラリアで早期の利上げ観測が台頭したことなどが上昇要因となりました。

●短期金融資産市況



国内短期金融市場では、無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。日本銀行が当座預金の残高の一部に△0.1%のマイナス金利を適用すること等を含む金融緩和政策を続けていることが要因です。

■ポートフォリオについて

●当ファンド

円建ての外国投資信託「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）」受益証券の組入比率は、原則として高位を維持し、「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券への投資も行いました。

●ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）

当作成期間中の運用については、安定した分配原資の獲得に留意したポートフォリオの構築を目指して運用を行いました。具体的には、収益の安定性を評価し「日本アコモデーションファンド投資法人」や「オリックス不動産投資法人」などを追加購入しました。一方で、相対的に分配金の伸び悩みなどが懸念される「積水ハウス・リート投資法人」や「日本プライムリアルティ投資法人」などの一部売却を行いました。

また、保有する円建て資産に対して円売り／豪ドル買いの為替取引を行いました。

【組入上位10銘柄】

2022年6月20日現在

順位	銘柄	比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.9%
2	野村不動産マスターファンド投資法人	6.1%
3	日本都市ファンド投資法人	5.9%
4	GLP投資法人	5.6%
5	オリックス不動産投資法人	5.2%
6	ジャパンリアルエステイト投資法人	5.1%
7	日本プロロジスリート投資法人	4.8%
8	ユナイテッド・アーバン投資法人	4.6%
9	アドバンス・レジデンス投資法人	4.4%
10	ジャパン・ホテル・リート投資法人	3.2%

(注1) ミズホ・ジャパン・リート・ファンドの不動産投資証券合計に対する投資割合。

(注2) 比率は前営業日ベース。

- MHAM短期金融資産マザーファンド
残存期間が1年以内の短期公社債などで運用を行いました。

【組入上位銘柄】

2022年6月20日現在

順位	銘柄	償還日	比率
1	375回 中国電力社債	2023/4/25	7.4%
2	11回 東海旅客鉄道社債	2022/12/20	7.4%
3	12回 東京電力パワーグリッド社債	2023/4/19	5.2%
4	122回 東武鉄道社債	2023/1/31	5.2%
5	192回 オリックス社債	2022/6/22	2.1%

(注) 比率は、MHAM短期金融資産マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

分配金

当作成期の収益分配金は、安定した収益分配を継続的に行うことを目指し、配当等収益の水準、基準価額の水準および市況動向等を勘案して、下記のとおりといたしました。なお、収益分配に充てなかった収益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期
	2021年12月21日 ~2022年1月18日	2022年1月19日 ~2022年2月18日	2022年2月19日 ~2022年3月18日	2022年3月19日 ~2022年4月18日	2022年4月19日 ~2022年5月18日	2022年5月19日 ~2022年6月20日
当期分配金（税引前）	25円	25円	25円	25円	25円	25円
対基準価額比率	0.52%	0.54%	0.52%	0.47%	0.49%	0.49%
当期の収益	25円	25円	25円	25円	25円	25円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	2,301円	2,304円	2,310円	2,316円	2,319円	2,322円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、円建ての外国投資信託「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）」受益証券の組入比率を、原則として高位に維持し、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。また、「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券への投資も行います。

●ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）

Jリート市場は、内外の金融政策への思惑や景気見通しに関する先行き不透明感などが上値を抑える一方で、相対的に高い配金利回りを背景とした資金流入期待などが下値を支え、底堅い展開を想定します。なお、感染症や地政学リスクなどへの警戒感が高まった場合は、値動きが荒くなる可能性があります。保有資産の質や運用能力など個別銘柄の調査・分析をもとに、配金水準・安定性等を考慮し、ポートフォリオの構築を図り、運用を実施していきます。

また、保有する円建て資産に対して円売り／豪ドル買いの為替取引を行います。

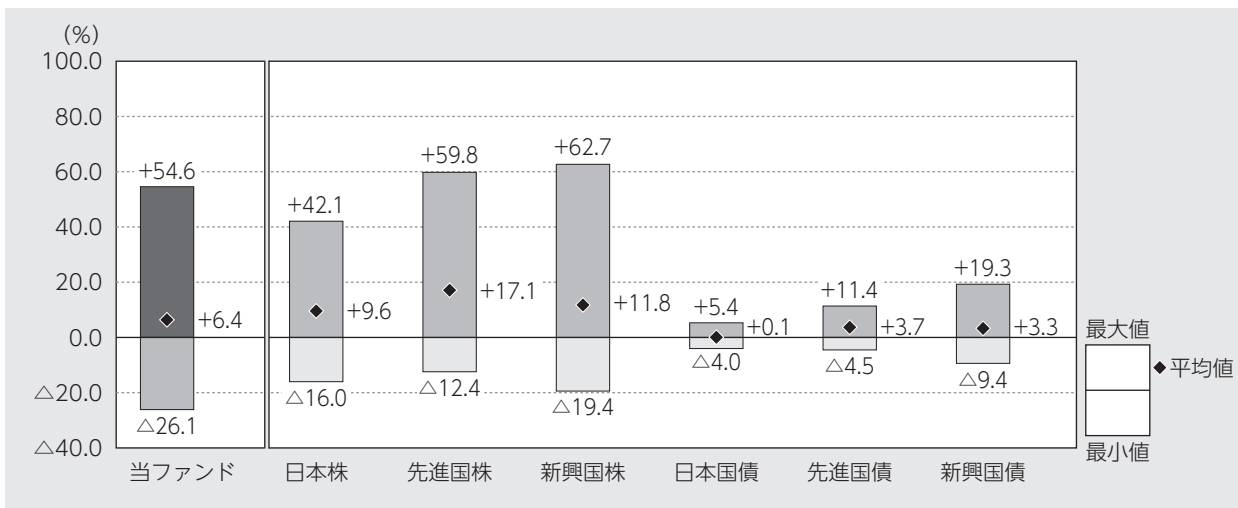
●MHAM短期金融資産マザーファンド

日銀は消費者物価指数が前年比2%の上昇となる物価安定の目標達成に向け、引き続き緩和的な金融政策を継続していくと予想しています。そのため、今後も短期公社債などへの投資を通じて、安定的な運用を目指します。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信（リート）	
信託期間	2011年1月6日から2025年12月18日までです。	
運用方針	わが国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主要投資対象	通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型）豪ドルコース	円建ての外国投資信託である「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）」受益証券（外国投資信託（豪ドルクラス）ともいいます。）および円建ての国内籍の投資信託である「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）	主として、日本の金融商品取引所および金融商品取引所に準ずる市場に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に分散投資を行います。
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	外国投資信託（豪ドルクラス）への投資を中心にを行い、投資対象ファンドの合計比率は、高位を維持することを基本とします。 コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。 円建ての外国投資信託では、原則として円建て資産に対して、対豪ドルで為替取引を行います。	
分配方針	第3期以降の每期（原則として毎月18日）、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、分配金額は、原則として安定した収益分配を継続的に行うことを目指し、配当等収益の水準、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。収益分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2017年6月～2022年5月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2022年6月20日現在）

◆組入ファンド等

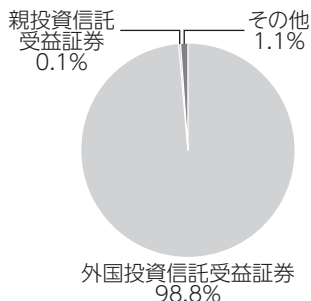
（組入ファンド数：2ファンド）

	第137期末
	2022年6月20日
ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（豪ドルクラス）	98.8%
MHAM短期金融資産マザーファンド	0.1
その他	1.1

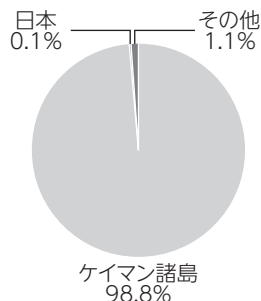
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

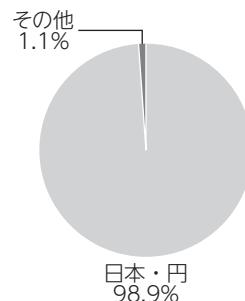
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

（注3）国別配分につきましては発行国（地域）で表示しております。

純資産等

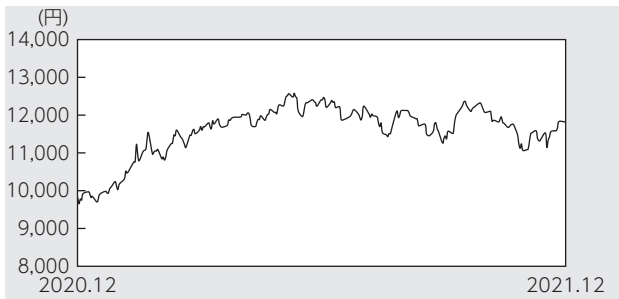
項目	第132期末	第133期末	第134期末	第135期末	第136期末	第137期末
	2022年1月18日	2022年2月18日	2022年3月18日	2022年4月18日	2022年5月18日	2022年6月20日
純資産総額	2,936,511,284円	2,792,525,471円	2,883,194,819円	3,110,048,507円	2,919,697,971円	2,866,576,213円
受益権総口数	6,157,642,156口	6,062,579,411口	5,998,991,524口	5,874,960,171口	5,732,305,211口	5,649,080,736口
1万口当たり基準価額	4,769円	4,606円	4,806円	5,294円	5,093円	5,074円

（注）当作成期間（第132期～第137期）中における追加設定元本額は223,235,736円、同解約元本額は811,264,298円です。

組入ファンドの概要

[ミズホ・ジャパン・リート・ファンド (豪ドルクラス)] (計算期間 2021年1月1日～2021年12月31日)

◆基準価額の推移



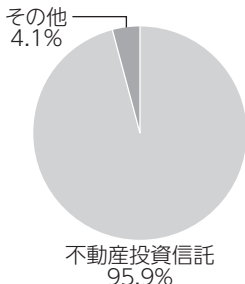
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
日本ビルファンド投資法人	日本・円	6.9%
GLP投資法人	日本・円	5.9
日本プロロジスリート投資法人	日本・円	5.6
野村不動産マスターファンド投資法人	日本・円	5.1
ジャパンリアルエステイト投資法人	日本・円	5.0
日本都市ファンド投資法人	日本・円	4.7
大和ハウスリート投資法人	日本・円	3.5
ユナイテッド・アーバン投資法人	日本・円	3.3
アドバンス・レジデンス投資法人	日本・円	3.2
積水ハウス・リート投資法人	日本・円	3.1
組入銘柄数	48銘柄	

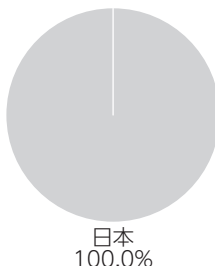
◆1万口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

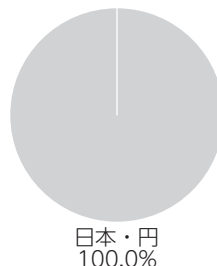
◆資産別配分



◆国別配分



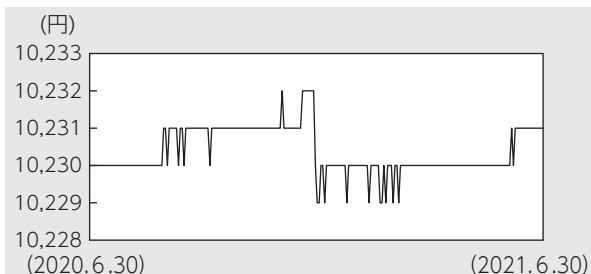
◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移はミズホ・ジャパン・リート・ファンド (豪ドルクラス) の計算期間のものです。また、当期における分配金を再投資したものととしてアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ミズホ・ジャパン・リート・ファンドの決算日現在の状況を表示しております。
- (注3) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分は、当ファンドを含む複数のクラスを合算したミズホ・ジャパン・リート・ファンドの内容になります。
- (注4) 組入上位10銘柄、資産別配分、通貨別配分の比率はミズホ・ジャパン・リート・ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分については組入有価証券評価額合計に対する割合です。
- (注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は、未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注6) ミズホ・ジャパン・リート・ファンド (豪ドルクラス) において、原則として保有する円建て資産に対して、対豪ドルで為替取引を行います。
- (注7) 組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) に記載されています。

【MHAM短期金融資産マザーファンド】（計算期間 2020年7月1日～2021年6月30日）

◆基準価額の推移



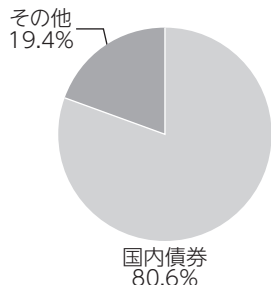
◆組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
23年度6回 大阪市公募公債	日本・円	25.5%
1回 政保地方公共団体金融機構債券 8年	日本・円	18.9
28年度1回 なじらね債	日本・円	15.6
139回 高速道路機構債	日本・円	14.1
23年度2回 京都市公募公債	日本・円	6.5
組入銘柄数	5銘柄	

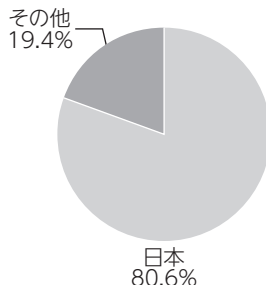
◆1万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

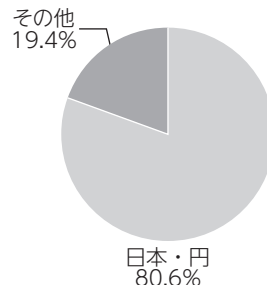
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので。
- (注2) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、日本の株式市場を広範に網羅し、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。同指数の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

